

花まるだよ！

2024
109

Hanamaru
Monthly
Newsletter

花まる学習会

花まる学習会

サマースクールより



2024年9月

夏 子どもたちとともに

今年も夏が終わりました。7月に原因不明の右肩の激痛に襲われました。水平の姿勢になると肩甲骨や肩に強烈な痛みがあり、病院や治療院に行っても大きな改善はありませんでした。仰向けに布団に寝られず初期10日は机に座って睡眠を取るありさまでしたが、教え子の柔道整復師さんの親身な世話などもあり、何とか一年の一番の楽しみであるサマースクールに参加できました。子どもたちの笑顔に触れるとパワーをもらえます。各開催地でみんなと班写真を撮ったりクワガタ体操をしたりするなかで徐々に改善していったのですが、これはもしかして「子ども治療法」というメソッドになるのではと感じたほどでした。

大きく改善したと感じたのは、無人島の6日間のコースに顔を出したときです。その日は島滞在と島滞在の間の日で、安芸津の港にある宿泊施設「はなコミあきつ」に子どもたちがいる日。私が到着すると14人の子どもたちが玄関にワーツと集まってきて、真っ黒に焼けたテッカテカの笑顔で大歓迎してくれました。会えて嬉しいという人の表情は、何と大きな力をくれることでしょう。さて驚いたのは、一人の中学生のWくんがいたことです。彼は昨年の「高濱先生と行く修学旅行」に参加した絶対に忘れられない一人だったのです。彼は天才系グレイゾーンに生きる、実

に将来しみなタレント。そういう子にあらがちですが「みんなとの集団行動に合わせる」ことが苦手。初日の夜、夕食の時間なのにホテルの読書コーナーから動きたくないと言い張るのです。本が大好きな心は美しいけれど、彼の将来を考えるとここは強く指導しなければなりません。何回ものやりとりがあったあと、私は10年に一度あるかないかの激しさで叱ったのです。修学旅行終了後になっても「あのときは言い過ぎたかな」と感じていた、私の胸のなかで小さな苦みの記憶となっていた子が今年も参加してくれている！

インタビュすると相変わらず愛想笑いがないマイペースなのですが、中学生になっても参加した理由がフルっていました。「キャンプが楽しかったから、また来たくて、アノネ音楽教室に入った」と言うのです。届けたスイカでスイカ割りもしたのですが、そのとき「俺は高濱先生にはメチャクチャ怒られたんだ」と班メンバーの小学生に話していました。いま思い出してもシンプルに「あれが良い指導だった」とは言えませんが、真心は伝わっていたんだと感じホッとしました。

さて施設の一階はカトバン（加藤）とアヒル（荒井）の二人が自分たちのデザイン力で構築したスペースなのですが、登り梯的な大きな樹木のオブジェがあったり中二階の秘密基地

的なスペースがあったりして何とも居心地がよい。そこで男女に分かれて入浴する時間に、中二階でそれぞれと雑談しました。男子たちは「自分のお母さんが怒ったらどれだけ怖いかな」「合戦になり爆笑でした。「うちのお母さんが怒るともう……もう……、家が噴火するんです」「うちの母さんはモノを投げてるんです」「これ言うなって言われてるんですけど、フライパンで叩かれました」「テレビのリモコンを渡せと言われたのにしばらくザツピングしてたら急に『おら！ いつ渡すんだコラ！』と怒鳴られました」等々。

女子はちょっとしたファンクラブ状態のやりとり。「お母さんが先生のこと大好きですよ」「私も前から大ファンで、講演会に連れていってもらったこともあるんですけど、先生が真横を通ったとき、声をかけようとしてるうちにサーっと行っちゃったんですよ」という感じで、どのリーダーもやる名札へのサインをしたときも、胸に抱きしめて喜んでくれる。

この男女それぞれとの雑談タイムは、文字通りの薬となったようで、帰りの車のなかで「あれ？ 肩の調子がよいぞ」と感じたほどでした。

実はこの何気ない雑談にこそ幸福はあるというのは、前から思っていたことです。管

新刊情報

『地頭がよくなり生きる力がつく 日本の昔ばなし25』

高濱 正伸 監修
(西東社)



高濱式読み聞かせメソッドでぐんぐん育つ！
定番から、1・2年生の教科書に掲載されるもの、おすすしたい知る人ぞ知る素敵なものまで、いまこそ読んでほしい「日本の昔ばなし」を25話収録。時代を越えて語り継がれてきた昔ばなしは、子どもを引きつける強いストーリー性と洗練されたことばの魅力も兼ね備えています。想像力を育む考え抜かれた挿絵に、興味を発展させる「なるほどずかん」、読み聞かせアドバイス・お話解説つき！

『持たざる者の逆襲』

まだ何者でもない君へ』

溝口 勇児 著
(幻冬舎)



「親ガチャ」と、人生が思う通りにならないことを親や人のせいにして、不良性を発揮したりしがちなのが思春期というものだ。親が言っても聞かない悪ぶった青年に、本書はズドンと刺さるであろう。親世代からの生半可でない苦勞を背負いながら、努力し起業にこぎ着け、スケールの大きな人生を実現している著者のアニキ感が良い。令和版『成り上がり』（矢沢永吉）かもしれない。多くの青年の独立心を刺激する1冊。

高濱の本棚

理職にならずに一担任として一生を全うしたいと願う先生の気持ちかもしれません。花まるでは教室長よりもテール講師、サマースクールでは宿長よりも班リーダーの喜び。ちょうど片品の「秘密基地作りの国」に行つたとき、病欠等でリーダーが不足したせいでしよう、花まる全体を引っ張ってきていまは新規プロジェクトのトップである相澤樹（パッション）が、班リーダーをしているのを見つけたました。食事場面で椅子に座り低学年の男の子に後ろから抱きつかれながら皆に目を配っているところに私が到着したのですが、私と目が合うなり実にまあ活き活きした瞳で「幸せですー！」と言ったのです。この気持ちを見失わず教育の仕事が続けられれば良い人生になるよ々と共感しました。

私にとっては、修学旅行のコースが一番子どもとの距離が近い4日間になります。短けれどマンツーマンで雑談や悩み相談を受けるワンオンワン時間も作っているし、何となく夜の「高濱タイム」での班ごとの話し合いで班リーダーも私も対等に意見をぶつけ合う、これが充実感があるのです。地道に宮々と継続していきたいと考えています。

さて、サマースクールは元々多くの方との信頼の絆の上で構築されているのですが、今年の修学旅行では、ヒシヒシとそのありがたみを再確認しました。

まずはHさん。私の小中学校の二年先輩。いろいろな迷惑をおかけしたこともあったのですが、私の活動を長い間応援してくださっている「川遊びや虫捕りの先生」です。

今年も私たちが来る前に何度も川の状態やクワガタ・カブトの捕れる木の状態を下調べしてくれ、「今回は胸川のこの場所ですぞー」と教えてくれるのです。しかも今年は地元の高校生5名をミニリーダーとして招いて、一緒に遊んだりお世話したりする関係を作ってくれ、子どもたちが大喜びでした。夜の高濱タイムの話し合いにも参加してくれました。

次に元花まる社員でいまは人吉市役所勤務の和泉くん。10年以上前に情熱大陸を観て九州から上京してきた繊細で熱い行動派ですが、花まるとして人吉の教育支援に入ったら、そこで嫁さんも見つけ定住したのでした。彼も毎年修学旅行では裏方として、草むしりや各種準備など、無償で応援し続けてくれます。

そして400年近く続く、お殿様のための茶道である「肥後古流」の宗家の小堀氏。彼は熊本高校の同級生で、ミニエピソードとしては、1500m走で高1のときは6分台だったのに高3のときに5分を切れたのは、バスケット部の小堀くんにはベタッと着いていったからというミニ恩人でもあります。この日のために紋付の袴を新調したという彼と、ずっと中心の幹事役としてお世話してくださる娘さんとお弟子さんたちの指導の下、講義から始まり、茶室の廻り口から入ってお茶をいただく経験、そして今年では広間でお茶を立てる体験を提供していただいたのですが、去年にも増して多くの子どもたちが「作法の美しさに感動した」「東京に帰ったら親に頼んでお茶を

始めたい」等々、熱い感想をくれました。

そのとき、私も雰囲気盛り上げようと和服に着替えたところ、みんなから写真を撮られました。そのなかで少年Hくんが撮った床の間の掛け軸やお花をバックにした一枚が「傑作だ」と話題になったのですが、何分かあとにはHくんがそれを自分のスマホの待ち受け画面にしていました。スマホを差し出して見せる満面の笑みの彼を撮影した写真は、私自身の今年一番の一枚にもなりました。



これはほんの一端で、さまざまな会場で子どもたちと出会い、今年も「ああ、これが天国だ」と何度痛感したかわかりません。教える子が大勢高校生リーダーや大学生リーダーになっていることにも深い感動があります。そもそもも予てくくださる親御さんはじめ、多くの方々に支えられてこそ存在できていることに感謝しつつ、来年も子どもたちと良い思い出が作れるよう、継続は力と信じてコツコツと体作りに励みたいと思います。

花まる学習会 高濱 正伸

花まるだより 2024 年 9 月号 (令和 6 年 9 月 15 日発行)

編集・発行 株式会社こうゆう
花まる学習会
高濱 正伸
企画・編集 久慈 葉津紀・生井 ちま
編集 金井 彩・清田 奈南
坂田 翔・高橋 奈穂・平山 真康
デザイン 春日 梨沙・西野 奈布子
印刷 アークランド株式会社



1, 2, 3, 4, 5, 6,
ぐわしくわし!!



今年もたくさんの方々が
高校生リーダーとして
戻ってきてくれました



川遊びも全力!



夜のハイタッチ会

高濱が、花まるの教室長をちょっとおちゃめに紹介するこのコーナー! 「タカタコ」は、高濱による他己紹介で教室長を深掘りします。2024年度のテーマは、「私の母」。各教室長が実際に自分のお母さんや家族に改めてインタビューした内容を、高濱がまとめました。





2024 サマースクール

全コースが終了しました。ありがとうございました！

花まるスタッフが現地で撮影した

サマースクール写真をお届けします。





なぞとき探偵団

～秋の親子探偵団ver.～

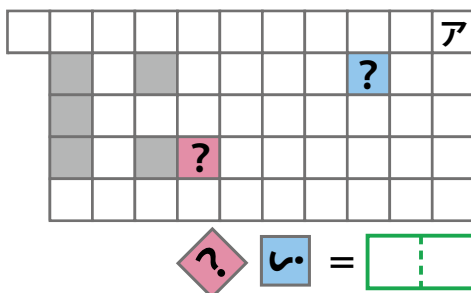


1

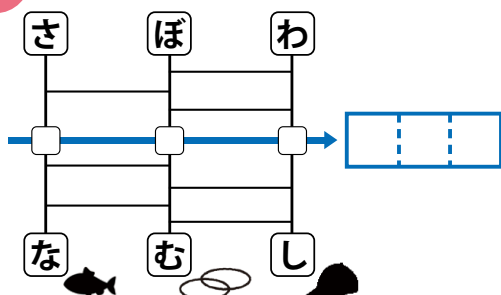
せいひん
製品－化 = 1000
のとき、

たこいと
風糸－外 =

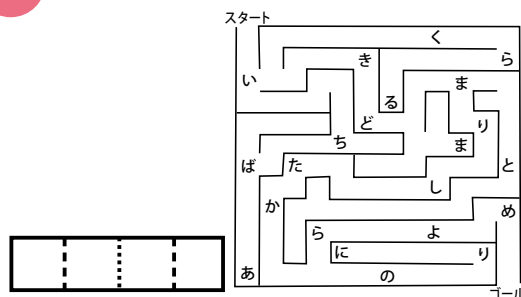
2



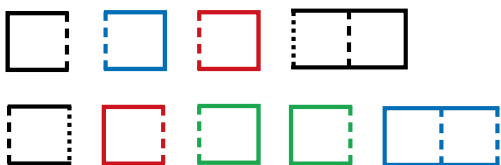
3



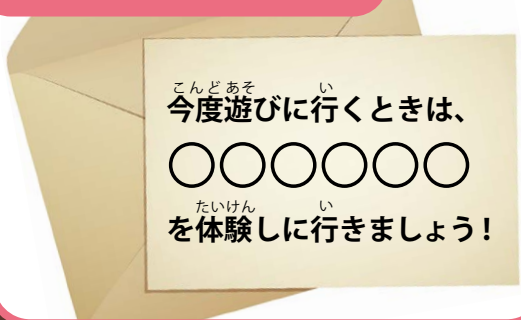
4



5



導き出されたメッセージ



出題：山田 悠人
(シュート)



出題：柳澤 隼人
(アンソニー)

かいどう
解答はこちら！



2024年 秋・親子探偵団 あらすじ

明治の時代に、二人の若い恋人がいた。二人は、同じ学校の同級生であった。
しかし、甘い日々は束の間のこと、卒業後、二人は別々の道に進まなければならなかった。
いわば身分違いの恋だったのである。
卒業式を間近に控えた、ある昼下がりの帰り道、二人は、最後の逢瀬の約束をすることにした。
しかし行き先はなかなか決まらない。

やがて、帰らなければならない夕刻が迫ってきた。
別れ際、彼女は彼に、逢瀬の行き先は手紙にしたためて送ることにすると伝えた。
微笑み合いながら二人は突き当たりで分かれ、それぞれの家へと歩み出した。

最後の逢瀬に、二人はどこへ向かい、何を話すのか。そして彼らの運命は。
そしてこれは、キミへとつながる物語。
この物語を解き明かせるのは、キミだけかもしれない……。

11/10 (日) 開催!

花まる親子探偵団 ~2024 秋~

親子で探検しながら新発見!
そのエリアの歴史に触れながら、足を使って頭も使って、なぞときに挑むイベントです。



日時 11/10 (日) 10:00 ~16:00 (雨天中止)

対象 花まるグループに在籍している小学1~6年生とその家族 (きょうだいは年齢制限なし)

会場 関東近郊
※会場は、参加が決定したご家族にご案内します。
詳細は、当日までのお楽しみです。開催日までに、会場のヒントが記されたクイズを参加者のみなさまにお送りします。

定員 40家族

お申し込みは先着順ではありません。この5~6ページのクイズ(全5問)と「導き出されたメッセージ」をご回答いただき、正解数が多いご家族から順にご案内いたします。
正解数が同じで定員を超えた場合は抽選を行います。

※参加決定後のキャンセルは、次の通りキャンセル料を申し受けます。
11/3 (日)以降20%、開催前日50%、当日100%

参加費 12,000 円+税 (親子2名で参加の場合)
※人数を追加する場合は、大人1名追加4,000 円+税、子ども1名追加2,000 円+税いただきます。
※参加費は、12月授業料とともに自動振替いたします。

申込締切 10/21 (月) 19:00

申込フォーム https://www.hanamarugroup.jp/usersystem/enquete_pre_form.php?en=6233
※参加の決定については、10/24 (木)にメールでお知らせいたします。



お問い合わせ 花まる親子探偵団 本部
tanteidan@hanamarugroup.jp
(担当: 臼杵)

【注意事項】

- 親子探偵団の当日は、LINEを使用したミッションが出る可能性がございます。LINEアプリをダウンロードしたスマートフォンをご用意ください。
- 花まる学習会のHPやSNS、花まるだよりなどにイベントの様子を掲載する可能性がございます。ご了承ください。



らくちゃん（東京都）



今年の父の日に娘がプレゼントしてくれたものです。

「いつもありがとう。毎日、何かしらつくっていますね。年中の頃、花まるで立てた『デザイナー屋さんになりたい!』という志は変わっていませんね。全力でサポートさせていただきます。これからもよろしくお願いします。父より」

Rinせんせいより

季節にちなんだモチーフを、飾れるように工夫したんですね。カサをひらいた様子を、円形の紙を切り重ねていくことで表現しているのかな？ 色とりどりで優しい雰囲気ですね。

そしてモールを使った持ち手のアイデアもいいですね。自由自在に形を変えられる素材の特徴をとらえています。

この作品を見て、「つくってみたい」と思ったそこのあなた、Rinせんせいも真似してつくってみました(笑)。でもまったく同じものは絶対にできません。あなたにしかつくれない唯一無二のものになるから、みんなも真似してつくってみたいだろうかな？ 真似してつくっているうちに新しいアイデアが降ってくるかもしれません。手を動かしているうちに、どんどんクリエイティブになっていくところも、創作のおもしろいところです。

こんな作品を父の日にもらったら、最高に嬉しいです。お父さんから娘へのメッセージに、ちょっぴり感動してしまいました。



「あなたは どうしたい？」
自分の ところに 向き合った
子どもたちの 作品展です。



花まるの授業中に先生がマジカルスティックで椅子をつくってくれたのですが、時間がなくうまくいかなかったとのことで、自分でつくってみるに見せたいとがんばりました。

お父さんと一緒につくりましたが、いざ挑戦してみるとマジカルスティックは面取りされていて立たせるのが難しい！

何回も失敗し、正直そばで見ていて無理だろうなぁと思いました。お父さんにコツを教えてくださいながら、椅子とたてものの2つを完成させました。

工作が好きなのですが、想像力と忍耐力が改めてすごいなと思いました。

(母)

Rinせんせいより

「みんなに見せたい」という動機が、思いもよらない集中を生んだんですね。

大切な誰かにむけて作品をつくるとき、子どもたちから生まれるクリエイティビティに、相手を思う力ってすごいと感じることはよくあります。大人が「無理だろうなぁ」と思ったことも、試行錯誤を繰り返して乗り越えていく姿に、驚きます。

あきらめないでやり抜く力は、好きなもの、遊びだと感じるもののおかげで培われるものだな、と改めて感じました。

面取りされているため見た目以上に表面積が小さくなり、立たせるのが難しいことも、つくってみたいと気がつかないですね。お父さんも一緒に取り組んでくれたんですね。

それにしてもこの作品群、くしゃみや風で吹き飛んでしまわないか、ドキドキしてしまいました。写真におさめておくのはいいですね。この作品も、見ていると挑戦したくなりますね～。挑む人、大募集😊ですね。



ゆりこちゃん（東京都）



今月のARTレシビ

『切って、貼って、コラージュアート』

Rinせんせいも大好きな技法「コラージュ」。

今回の動画では、過去に描いた絵を切り出したり、丸くて白いシールに色を塗ったりして素材として使っていますが、そもそも使う素材にも貼りがたにも、決まりも正解もなく、ただ頭を空っぽにして楽しめる自由な表現ができるもの。

新聞や雑誌から文字や写真を切り抜いて貼っていくのも楽しいですし、立体的なものでも大丈夫。

思ってもみない作品ができれば、ぜひ教えてください。

<https://youtu.be/KhVptX1BYZU>

Rinせんせいがつくってみたいよ！



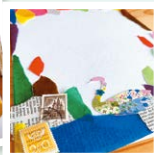
つくり方を
動画で
見てみよう

じゅんぶするもの
ハサミ・のり・自由に切って貼りたい素材・
画用紙や紙袋など貼り付ける台紙

みんなの
うちART作品を
待っています！

- ・レシビ部門
- ・じゆう部門

Rinせんせいに
おくらせよう！



こころと頭を
同時に伸ばす
幼児期の子育て

Rinコラム

60

自由な環境とは 対等であること

創作中、子どもたちはどんな気持ちでいるのでしょうか。

できたものを「見てほしい」という前向きな思いだけではなく、「思いついたアイデアを試してもいいのかな?」「これでもいいの?」「失敗しちゃった」というような不安が出てくることもあります。

大切なことは、すべての提案や発見、新しいアイデアを含む子どもたちの思いをそのまますべて受け止めるということ。「これだとうまくいかないかも……」「この道具はそんなふうに使うものではないよ」と大人が思ったとしても「ダメ」とは言いません。

「いいね」「やってみてらん」「おもしろいアイデア」「間違いないよ、大丈夫」こんなふうに肯定、ポジティブ、前向きな認める声だけで返答します。

「これをやったらダメと言われるのではないか」という緊張感が解けてホッとした顔をする子もいれば、「本当に? やっていいの?」と何度も確認する子もいます。しかし、「ここは何でも受け止めてもらえるんだ」と安心した子どもたちは、どんどん「自由に」創作していくことができるようになります。

不思議なことに、人は自分の在り方そのものを肯定してもらえない環境では、その場にそぐわない行動はしなくなります。自己の内面へと意識が向かうからでしょう。

作品制作、創作表現は、正解のない世界。既存の価値観や他人の評価に拠る必要はありません。子どもたちが「自由に」創作できる環境を整えることができれば、感性、自主性や意欲、他人を尊重する力、想像力は自然と引き出されていきます。その環境をつくるための重要なポイントのひとつが「大人と子どもが対等であること」です。

それはつまり、表現者として対等であるということです。

普段私たちは年長〜中学生までの30人くらいの子どもたちとスタッフ数名と一緒に創作活動をしています。通常、異学年の子どもたちがこれだけ集まると「6年生だから」「中学生だから」「下の子の面倒を見なければ」というような意識が生れます。そのことは、教育的にも意味がある集団のダイナミクスと言えるのですが、創作の時間にはそれが生まれません。

「1年生だからうまくできない」も「中学生だから上手」もない。全員が、自分と同じように自身の作品に向き合って作り上げたものがそこに並ぶと、自然と作品と作者への敬意が生まれてくるのです。

「そんなアイデアがあったのか!」「私は気づかなかった」「すごいなあ」……鑑賞会では、心からの称賛の言葉がもれ、作品をよく見ようと、身を乗り出して観察し、子どもたちは対等

に、お互いの作品を認め合います。

「こんなふうにも見える」「本当だ」「ひっくり返してみても」作品の見方は、鑑賞者の解釈によって無限に広がったり変化したりしていきます。ものの見方を広げていくこと、多様な視点で見つめることに、(対話型)鑑賞は役立つことが、その様子からわかります。

大人のスタッフも、子どもからアドバイスを受けたり、自らの制作のヒントを得たり、いい意味で「全員がフラット」であるのは、その場にいる大人が、心から子どもたちの作品とともに存在する「共感者」であり続けたからです。

生み出された作品は、子どもたちの内面が目に見える形となったもの。それは一人ひとりのいまが凝縮された、その人そのものです。心が一つひとつ唯一で世界一なのと同じで、それぞれの作品も唯一で世界一のもの。そして、その人の心(作品)を見て、自分の心が何を感じたかを表現しあっていくことが、コミュニケーション(鑑賞)。全員が全員の心を認め合う。そのままの自分であることを、肯定し続けられる時間。そのことが子どもたちにとって、どれほど重要な意味を持つのか。

本当に「自由な」表現を許されたときにこそ、子どもたちは真の自分を解放して、力を発揮し、自信を得るのです。

Rin (井岡由実)

Atelier for KIDs



スクリブルアート

2024.10.27 (Sun) 10:30~

10/27(日) 10:30~12:00 スクリブルアート

【対面コース】

対象 年中〜中学生
定員 30名(予定)(お茶の水花まるラウンジにて)
参加費 1名3,500円(税込)
申込締切 10/9(水)19:00

<https://www.hanamarugroup.jp/art-edu/news.php>

全国から
参加可能!

NEW! おうちアトリエコース

素材セットとおたよりがご自宅に届き、お好きなタイミングで制作をします。

Zoom(授業日の午後)またはLINE公式アカウントのやりとりにて、鑑賞会も行います。

詳しくはHPをご覧ください。

参加費:1名2,500円(送料・税込)
申込締切:10/9(水)19:00

『こころと頭を同時に伸ばす A1 時代の子育て』
(実務教育出版) より





花まる教室長がお届けする
子育て奮闘記

花まるリビング

38

勝谷 里美

花まる学習会の教室長を担当しながら、花まる学習会や公立小学校向けの教材開発や、書籍出版に携わる。現在は、小4・小2・2歳の母として子育てに奮闘中。著書に『東大脳ドリルこくこ伝える力編』『東大脳ドリルかんじ初級』『東大脳ドリルさんすう初級』（学研プラス）ほか



「好き」を観察し、「好き」から攻略する

花まる学習会とスクールFCのスタッフが有志で集まった読書会で「子どもに歴史を好きになつてほしいがまったく興味がない。何から読ませるのがよい？」という話題になりました。おもしろかったのは参加者の「おすすめ」が多様だったことです。

——歴史漫画は王道！

——ファンタジー小説が好き。古代日本を舞台にした物語を読んで日本史好きになった。

——人に興味がある。気になる人を深掘りするなかで、時代背景が気になってきた。

——理科が好き。科学史を軸に学ぶと、歴史にも興味広がっていった……など。

花まる学習会では、低学年までは特に「学ぶことは楽しい」と感じてもらうことを重視しています。それは「好き」に勝る原動力はないからです。根本に「学ぶって楽しいな、好きだな」という感情があれば、その先、さまざまな力へとつながっていくはずです。

今回の問いへのさまざまな答えは、まとめると「自分の好きを探し、そこを切り口に興味を広げていく」です。やはり「好き」は偉大。

わが家の話。青いハコ（思春期。親の言うことを聞かなくなり外の師匠のアドバイスが有効な時期）に入った、10歳の長女。なかなかお手伝いをしない。日々、自分の好きなことだけをしたいタイプ。

ある日私が一番忙しい夜の時間に「やることない」と言ってきました。毎度お決まりの「宿題をやったら？」「やだ」「お風呂に入ったら？」「やだ」の問答を繰り返して、いい加減、私もうんざりしていたのですが、ふと「何かに興味を持ってもらうには、「好き」から入るべし」という事例を思い出したので、

「洗面用具の引き出しや、私の化粧品品のポーチの

中身、全部出していいから、整理して、古いやつ捨ててくれない？」

と頼んでみました。すると「えー」と言いつつも「仕方ないなあ」と整理整頓に取り組んでくれたのです。最近、メイク道具に興味を持っていた長女は「これ何に使うの？」など話しながら楽しんでいました。

（「好き」を混ぜるとお手伝いをしてくれる！）と味をしめ「お菓子の置き場所もぐちゃぐちゃなんだよね」と言ったら、なんと、そこも片付けてくれました。（早く宿題をやるうよ……）と言いたい気持ちはあったものの、ずつと気になっていた部分の片付けが終わり、私も少しいい気分でした。

2歳半の次女。偏食です。夕食がチンジャオロースだったのですが、案の定いやがる。ただよく観察すると、豚肉もタケノコもピーマンも「全部一緒」を特にいやがっている様子。（ん？この様子、何かと似ている）と考えてみたら、次女が積み木遊びをしている様子が浮かんできました。

次女は「色」がとても好き。兄が五色のヒーローものを見ていたら、横で「どんないろーがすきー？赤」と歌い出したり、ぬいぐるみに何かを配るときにそのぬいぐるみと同じ色のものを配ったり、こだわりがあります。ブロックで遊ぶときも色が混ざるのをいやがり、必ず一色を集めて何かを作りたいがります。

「色が好き」な特性を、食事にも活かさないかな？と思い実践。チンジャオロースを「ピーマン、豚肉、タケノコにそれぞれ分ける」「きみどりのピーマンだよ」「濃い茶色の豚肉」「タケノコはうすい茶色」など、食材の色に注目させる声かけをしながら食べさせたら、めずらしくはくばく食べてくれたのです！自分から「ピーマンはきみどり」と言うなど興味津々でした。毎回使える技かはわかりませんが「好き」から広げていくことの有効性を強く

く感じた事例でした。

10歳にも、2歳にも「好き」を切り口にした声かけはとても効果的でした。子育てで普段の声かけにちょっと煮詰まっているとき、子どもの「好き」を観察することから始めてみる方法、おすすめですよ！

花まる学習会 勝谷里美



『こそだてえほん はじめてのよのなルールブック』
高濱 正伸 監修
林 ユミ 絵
(日本図書センター)

ベストセラーシリーズに、待望の【お母さん・お父さん編】が登場！「こそだて」と向き合うためにおぼえておきたい42の習慣を紹介。「親はどんなことを心がけたいの？」そんなお母さん・お父さんを応援する絵本です。そのなかに「子どもの「好き」を応援する」という一節も！



『おすしのずかん』
大森 裕子 作
藤原 昌高(ぼうずコンニャク) 監修
(白泉社)

食べ物としてお寿司が好きなお寿司屋さんへのお出かけが好きな子、そもそも図鑑が好きな子。そういった「好き」をきっかけに、この本に触れるとお魚にまで興味が広がっていくかも？何か一つの好きをきっかけに、好きの連鎖が起きると楽しいですよね！



『くまさんくまさんにみてるの?』
エリック・カール 絵
ビル・マーチン 文
偕成社編集部 訳
(偕成社)

実は長女と長男はあまり読まなかったこの本ですが、色が好きな次女は、色鮮やかな動物が出てくるこの本を、何度も「読んで」とせがみます。一度読んだことがある本も、好きを切り口に読み返してみると、また違う発見があるかもしれませんね。

私の母は、4人きょうだいの末っ子で、山形で育ちました。小学校時代に2番目の姉を交通事故で亡くしたときはショックでした。たばこの葉を生産する農家で、親戚一同で助け合って作業していたのですが、小5の私が思春期の入り口で「行きたくない」と言ったら、「働かざる者食うべからず！」と言って激怒されました。その美家を継げなかったことは後悔しています。『菊地健斗・プロテイン』

Masahiko
白杵 允彦
Usuki

大人になっても、おじいちゃんになっても、忘れないよ

わが家の長男（小4）は、小1の頃、学校でよくいじわるをされていました。モジモジくんだったので、それがエスカレートしていったのです。親として心配ばかりが積もる日々でした。そのため、深夜に妻と話し合うこともしばしば。やがて夫婦の間で一つの想いが強くなっていきました。

「親が出るのではなく、息子にはもめごとをはねのけていけるような人に育ってほしい」

「どうしたら、そうなれるかな？」と妻。私はさすがに「サマースクールに行かせよう」と一言。花まるの野外体験では、初めて会う子たちが班を組み、喧嘩をしたら子ども同士で折り合いをつけることを大切にしています。そのため、私はこれまでにた

くましく「もめごと」を「こやし」にしていく子たちを、幾度となく見てきました。わが子もきつと花まるっ子たちのように強くなれると信じているからこそ、家訓のように決めたのです。息子には、花まるのすべての野外体験に行ってもらおうと（可能な限り）。

小1で初めて参加した夏の3泊4日は、親子ともにドキドキでしたが、帰ってきた息子は、鼻の穴をパンパンに膨らませながら「また行きたい」と目を輝かせていました。小2で参加した雪国スクールでは「喧嘩して泣いた」と言っていました。ちゃんと仲直りしたようで、班で盛り上がった「手打ち野球」が家でも流行りました。もめごとをこやしにできたのだと安心しました。

やがて小3になる頃には、学校でもひょうきんな一面が出るようになりました。ある日、授業参観に行った際、女の子が私のところへ来て、「Kくん（息子）のお父さんですか？ Kくんモテるんですよ」とだけ言って去っていきました。夜、息子と一緒にお風呂に入りながら事情を聞きました。

「K、学校でモテているの？」
「結婚したいと言われた」
「それで、なんて答えたの？」
「大人になっても、おじいちゃんになっ

も、忘れないよ」

「……」

言葉が出ませんでした。恋愛の「れ」の字も知らない息子がこう答えたのは、本人曰く、結婚はできないけれど、その子を傷つけることはしたくなくて、考えて言ったことだったようです。

こうした気持ちは、どこで培われたのか。野外体験だとすぐにピンとききました。目をつぶると、去年引率したサマースクールの情景が、昨日のようによみがえってきます。

川遊びで、Aくんは大きめの石を一生懸命集めては温泉をつくっていました。やがて「できた！」の声とともに呼ばれた私。「ここに座ってごらん」と案内され腰を下ろすと、雄大な最後の山々が視界に入ってきたのです。「毎年来ているはずの湯沢の川に、こんな絶景ポイントがあったなんて！」その感動と癒しに浸っていると、Aくんが嬉しそうに私の顔を眺めていました。

Bくんは、何度も川に顔をつけては、何かを探しているようでした。近づくと、「ヌシがいた！」と教えてくれました。「ヌシ!？」その名を聞いた子たちが続々と集まってきました。せーので潜り、水中で息をひそめ、目配せし合いながら、ゆっくりと岩を持ち上げては下ろしていきます。やが

て、搜索活動の息がぴたり合ってきた頃、見たこともないオレンジ色の魚が私たちの視界に飛び込んできたのです。「ヌ……」と誰かが言いかけた瞬間、それは電光石火のごとく去っていきました。顔を上げ、みんなで叫びました。「ヌシだー!!」

何を回想しても、その登場人物すべてが「みんなと一緒に幸せになりたい」という気持ちで、自然に遊んでいたように思います。してもらって嬉しかったことをやろうとするのが子どもで、思いやりの心は自ずと育まれると私は信じています。先の息子が告白された話でも、目の前の人を大事にすることは、教わらなくてもできると感じました。その価値観は、仲間との出会いや、ドラマチックに思っておもいに遊ぶことなかでこそ醸成されるもので、私は、わが子の心を強くするのを野外体験に頼ったのかもしれない。

さて、「次も野外体験に行く？」と息子に聞くと「当たり前」と返ってきます。理由は「友達をつくるのが楽しいから」だそうです。大人も子どももみんな友達になれる。そう気づいてからかもしれない。息子が学校でいじわるされなくなったのは。

花まる学習会 白杵 允彦



『長浜高校水族館部!』

令文 ヒロ子 文
紀伊 カナ 絵
(講談社)

この本に描かれている愛媛県立長浜高校は、生徒たちが校内で本当に水族館を運営している実在の学校。一般公開日には生徒みずから案内や解説をし、執筆した研究論文は世界的にも高く評価されています。自分の「好き」を追究し、「未知」を探究する高校生たちの姿が非常にさわやか。著者は『若おかみは小学生!』シリーズや、『パンプキン! 模擬原爆の夏』などでも有名。



『ゆけ、シンフロ部!』

堀口 泰生 著
青木 俊直 絵
(Gakken)

「変わろうと思った瞬間から、人は変わる!」。大分でさかん(?)な「シンフロ」を題材にした直球の青春小説。登場人物の奮闘ぶりに笑って、でもラストには思わぬ感動が——。公開から2か月で100万回再生を突破し、2016年にはギャラクシー賞を受賞した大分県のプロモーションCMを書籍化。チャーミングなイラストは朝ドラ『あまちゃん』でも有名な青木俊直氏によるもの。



『青春サプリ。自分がここにいる理由』

青木 美帆、田中 夕子、ささき あり、
近江屋 一朗、日比野 恭三 文
くじょう 絵
(ポプラ社)

さまざまな立場で部活動に打ち込む全国の若者たちの姿を描き、朝読書でも人気の“部活の最高の教科書シリーズ”です。いわゆる強豪校のスター選手だけではなく、一風変わった部活に打ち込む学生、補欠選手やマネージャーなどの視点からも描かれているのが斬新。中高の学校選びの参考にもうってつけ。エピソードはすべて実話。登場人物はすべて実名。そして、すべてが「神回」です!



Vol.59

平沼 純の

～こんな習い事・部活動はいかが?～



『っぽい』

ピーター・レイノルズ 作・絵
なかがわ ちひろ 訳
(主婦の友社)

お兄ちゃんの何気ないひとことで絵を描くことに自信をなくした一人の少年が、再び表現する喜びに気づくまでの小さな物語。「そうか、っぽいでいいんだ——」ゆっくりと時間をとって読んだあと、ぜひまわりの風景を見てみてください。きっと、いままでとはちょっとちがって見えるはず。戦後広く読まれた日本初の哲学書『善の研究』(西田幾多郎)で述べられた「純粹経験」とも共通するメッセージがこめられた、薄くても奥深い一冊。



『アンジェリーナはバレリーナ』

キャサリン・ホラバード 文
ヘレン・クレイグ 絵
おかだ よしえ 訳
(講談社)

バレエが大好きなねずみのアンジェリーナは、いつでもどこでもくるくる踊ります。勉強もお手伝いもしないアンジェリーナに困ったお父さんとお母さんが考えた名案とは……? まさに「夢中は努力に勝る」を体現したアンジェリーナの姿が魅力的。彼女を見守るお父さん、お母さんも印象的で、夢中になれるものをもつことの素晴らしさが感じられる、珠玉のロングセラー。



10月〈第6回〉「本×社会科見学 ～見てみよう、『よのなか』のバックヤード～」

私たちが何気なく暮らしている日常生活のバックヤードには、こんなにも楽しい世界が広がっているんです。私たちを見えないところで支えているたくさんの人たちの仕組みがわかる数々の本のほか、世帯をこえて楽しめる社会科見学におすすめのスポットもランキング形式で紹介。秋の行楽シーズンの参考に是非!

10/17 (木)・10/19 (土) 10:30～12:00
参加費 一家族 500 円 (税込)
申込締切 開催前日の 19:00

<https://www.schoolfc.jp/extension/j-hiranuma/2024/>



全国から参加可能!



花岡 宏哉
(ヒーロー)

花まる くらぶ

ムイカの歓喜

昨年末、雪国スクール「花まるスキー王国（エキスパートクラス）」に班リーダーとして参加しました。

直前まで新潟県の湯沢地域は雪不足の影響でスキー場が開かず、初日は近くの広場で雪遊びをして大盛り上がり。自分たちよりも大きな雪だるまを作ったり、かまくらを完成させたり、雪合戦を楽しんだり……。何もない雪原で無限に遊びを生み出す子どもたちの姿が微笑ましく思えた、そんな初日でした。

2日目、なんとが隣町のスキー場がオープンしたということで、バスで40分ほどかけてムイカスノーリゾート（新潟県南魚沼市）に行きました。そこでのエピソードを綴ろうと思います。

私が担当した班の2年生Yくん。彼は、「パラレルターンを成功させたい！」という目標を達成するために、マイスキー板

を持参してこのコースに参加しました。ところが午前中の彼の様子を見てみると、その意欲とは裏腹にどこか消極的。気になった私は、二人でリフトに乗った際に聞いてみました。すると「とにかく安全に滑りたいんだ」という言葉が出てきました。

Yくんには、スキーをしている最中に怪我をした過去があり、それがトラウマになって思い切った滑りができないとのことでした。目標としていたパラレルターンには挑戦することなく、午前中のスキーは終了。

宿には帰らずに、そのままスキー場で昼食を食べていたときのことです。「八の字は安全だけれど、なんかなあ」とボソツと一言。モヤモヤを抱えている様子でした。

吹雪が強まり寒さが一段と厳しくなってきた午後のスキー。一寸先も見えない状況です。日も傾きはじめ、バスに乗って宿に帰るまであと1時間。いよいよ終わりの時間が近づいてきたとき、Yくんがチームの仲間に向かって「全員でパラレルを成功させよう！」と言ったのです。きつと、このままでは終われないという気持ちと、この班の仲間たちとなら成功できるという気持ちがYくんの言葉を生んだのでしょう。

Yくんの言葉をきっかけに、チームの

仲間の教え合いが活性化しました。Yくんは、5年生Kくんの「ターンするとき少し板をあげてごらん」というアドバイスを参考に、最後の1時間をパラレルターンの練習に費やしました。

そして迎えた終盤、なんと全員がパラレルターンを成功させたのです。吹雪のなか、輪になって喜ぶ子どもたち。スキー場の名前を取って「ムイカの歓喜だ！」と叫んでいました。

間もなく帰りの時間。「あと一本いけるけれどどうする？」と聞くと、Yくんは「もういいかな」と満足そうな表情で答えました。一足早く集合場所に向かうとしたとき、彼がもう一度口を開きました。「リーダー、最後にやっぱり滑りたい！」と。

顔が凍るほどの吹雪のなか、滑り終えたあと、Yくんたちを祝福するかのようには吹雪はピタッとおさまり、綺麗な夕焼けを見ることができました。

達成感に満ちあふれた彼の表情。目を見合わせて私とグッドポーズ（👍）の瞬間、言葉はいりませんでした。

宿に戻り、Yくんはパラレルターン成功の秘訣を聞いてみると、『板を動かさないぞ！』と思い続けたら勝手に体が動いたんだ!!』と興奮気味に教えてくれました。

翌日は雪国スクール最終日。宿からす

ぐ近くのスキー場もオープンしたのとことで、午前中にスキーをしました。リフトに乗っているときにYくんが「リーダー、パラレルターンをするときはね、実は上半身が大事なんだよ」と教えてくれました。

昨日とは打って変わって理論的な秘訣に驚きましたが、言われてみれば私の小さい頃もそうだったなと思い返しました。

逆上がりでも、二重とびでも、説明を聞くよりも、何度も失敗して、それでも立ち上がって練習を続け、いつの間にかコツを掴んでいく。

習うより慣れろ、理論より実践と言い換えてもいいでしょう。まさに小さな成功体験が自信になる瞬間です。

Yくんが一步踏み出せたのは、間違いない仲間の存在があったからです。仲間がそばにいるからこそ、最後の一步が踏み出せる。花まる野外体験の醍醐味が詰まった3日間でした。

花まる学習会 花岡宏哉

花まるの
教室長を
紹介します!

Hanamaru Family 花まるファミリー

オンライン アルコ アルゴクラブ みんなビレッジ 無人島 FC スクールFC Flos フロス アノネ音楽教室

みなさんの教室長も順番に紹介するよ。お楽しみに!



Rinせんせい

いおか ゆみ
井岡 由実

花まる学習会 ARTのとびら 奈良県



いしばし しゅうへい
石橋 修平

東京東 東京都



かざま しょうへい
風間 翔平

東京西 FC 埼玉県



かとう たかあき
加藤 崇彰

関西 茨城県



くさか べりょう
日下部 龍

東京東 埼玉県



こまつ ばら まなぶ
小松原 学

千葉 千葉県



たかはし だいすけ
高橋 大輔

埼玉 千葉県



たなか りさこ
田中 理紗子

中京 愛知県



はら みおり
原 実緒

中京 岐阜県



ひぐち まさと
樋口 雅人

埼玉 岡山県



まつうら かな
松浦 加奈

神奈川北 東京都



みのうら けんじ
箕浦 健治

東京西 大阪府



たかはし まさのぶ
高濱 正伸

〇〇〇 熊本県

リーダーネーム

名前

所属

出身地

サマースクールや雪国スクールで会おうね!

9月の誕生花は **ダリア**

私の母にインタビューすると、大切にしているものは家族で、信念は「自分の人生は自分で決めて自分で閉じる」とのことです。話を聞いておもしろかったのは、私の個性だと思っていた「できないこと」はできないといいけれど、『もうこれは無理』というところまではとらずあきらめず頑張ろうとする性質は、実は母親譲りだったんだと確認できたことです。 | 岡本祐樹・カモン